

入江あき子の 県議会報告

9月県議会(9/26~10/22)では、代表質問に登壇し、
県政のさまざまな課題について、質疑しました。

Index 2013.11 発行

- 1 頻発する異常気象
「想定外」の災害にどう対応する
のか?
- 2 代表質問より
急速な高齢化が進む千葉県
待ったなしの医療・介護問題
- 3 その他の質問より
- 4 活動報告
あつてはならない!
千葉県のコンプライアンス違反



活

動

報

告

◆ 印旛沼流域の水循環健全化

● 佐倉のおいしい地下水を守り、飲み続けるために、県環境保全条例の見直しを求めらる。

● 冬期湛水田による有機米づくりを市内で実践中。



4/29 小竹での田植え

◆ 児童養護

● 児童相談所や児童養護施設
の環境改善や退所後の自立
支援策の充実を働きかける。



7/23 会派で県立乳児院を視察

◆ 地域医療

● 医師・看護師の養成確保、医
療と介護の連携(在宅医療の
充実等)を働きかける。

● 県立東金病院閉院後の後医
療、東千葉メディカルセン
ター開院に向けて地元住民
の声を県に届ける。



8/28 県立循環器病センター視察

◆ 脱原発・自然エネルギー政策

● 原発事故による放射能被ば
くから子どもを守るため、健
康管理調査の早期実施を県
に働きかける。

● エネルギーの地産地消・自立
分散型電源の調査研究のた
め、長野県飯田市など先進
自治体を視察。



7/4 飯田市自然エネルギー視察

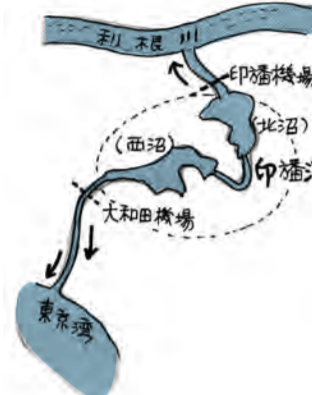


「想定外」の災害に どう対応するのか?

台風26号が直撃

10月15日夕方から降り始め
た大雨は、千葉県内にも甚大な
被害をもたらしました。印旛沼
流域の総雨量は264mmに達
し、印旛沼の最高水位は4.17
mと歴代1位を記録。沼の計画
高水位4.25mに、あと8cmま
で迫りました。

印旛沼を管理する「独水資
源機構」は、沼の水位低下を図
るため、午後9時から印旛機場
からポンプで利根川に排水を
始め、さらなる水位上昇に備え
3時間後には大和田機場の運
転をスタート。花見川に排水
し、東京湾に流しました。



市内の浸水被害は164件

しかし、印旛沼にある排水機
場では大雨で施設自体が冠水
し、機能しなくなるどころが続
出。佐倉市でも白井地区のポン
プが停止し、周辺の家屋が水浸
しになりました。今回の台風で

◆ ストップ！ハツ場ダム

● 治水・利水両面で必要のない
ハツ場ダムからの撤退を求
め、6都県議員連盟や市民団
体の幹事として、国交省との
交渉や国会ロビー活動を10
年間継続的に行う。



5/18 千葉駅前での街宣活動



10/30 ハツ場ダム住民訴訟 東京高裁前

◆ 防災・減災対策

● 東北の被災地を訪れ、復興の
課題と支援のあり方を学ぶ。
● 災害時の避難所運営のあり
方、防災分野の女性参画等
について県に働きかける。



5/14 地震・津波対策協議会で気仙沼視察

あつてはならない! 千葉県のコンプライアンス違反

今年5月末、「健康福祉セン
ターで結核患者の入院勧告等
の事務処理について法令違反
がある」との内部通報を受け、
県は6月25日に13保健所のう
ち6カ所で64件の問題があつ
たと報道発表。センター長への
厳重注意をもって、事態を収束
させました。ところが、私が追
跡調査したところ、昨年度厚労
省が行った監査でも同様の指
摘がされており、しかも改善さ
れていなかったことが判明。

10月11日の健康福祉常任委
員会で法令違反があつた保健
所はどこか?なぜこの間、問
題を放置し、改善しなかつたの
か。内部通報後、どのような原
因調査を行ってきたのか。コン
プライアンスに対する意識が
欠如しているのではないかと
当局を厳しく追及し、印旛保
健所はじめ6センターにおける
改善策を求めました。

結核の入院は、公権力によつ
て患者の自由を制限するもの
であり、人権にかかわる問題で
す。従つて、法律に基づいて正し
く事務手続きが行われなけれ
ばなりません。

AKIKO'S PROFILE

入江あき子
プロフィール

- 1965年 仙台生まれ
- 1988年 国際基督教大学(ICU) 教養学部社会科学科卒業
- 2003~2011年 佐倉市議会議員
- 2011年4月 千葉県議会議員1期目
会派:市民ネット・社民・無所属
・健康福祉常任委員会委員
・千葉県環境審議会委員
・千葉県議会地震・津波対策議員連盟所属
・千葉県議会資源エネルギー問題懇話会所属
・ハツ場ダムを考える1都5県議会議員の会事務局長
・利根川流域市民委員会幹事

「机上の空論」はダメ

今年5月、国交省は戦後最大規模のカスリーン台風が再来し、堤防が決壊すれば34兆円の被害が生じるとの前提で、ハツ場ダム建設を盛り込んだ河川整備計画を策定しました。しかし、この計画は過大な洪水流量を基にダムありきの河川事業を推進するものであり、この先何十年かけても実現できない「机上の空論」です。

事実を目を向けると、最近60年間で最大だった19008年9月洪水時、利根川中流部での水位は堤防の天端から4~5mも下を流れていたことが、国交省の調査で明らかになっています。実際、利根川本川はカスリーン台風以来、一度も破堤していません。

その一方、国交省は洪水時に水が堤防内を浸透して壊れる「ハイピング破壊」の危険性がある堤防が利根川で6割を超えると報告しています。しかし、堤防強化も後回しになっています。

ダムに頼らない流域治水を!

いま急ぎ求められているの



6/9 佐倉市水防訓練で高崎川治水対策の説明を受ける

は、私たち住民の命と財産を守る現実的な治水対策です。そのため、地域の実情に応じた内水氾濫対策や脆弱な堤防の強化等を優先すべきです。

8月末、滋賀県庁を訪れ、流域治水推進条例案(二)について、学んできました。この条例の目的は、計画を超える超過洪水に対応するために、ダムだけに頼らない治水対策をハード・ソフト両面で総合的に進めていくことにあります。

ハツ場ダムは今

9月県議会では、ハツ場ダムの工期を4年延長し、2019年度とする「基本計画変更に対する同意」が賛成多数で可決成立しました。この先、事業費の増額は500~600億円との試算もあり、総事業費は1兆円に達する見込みです。現時点でも千葉県の利息を含めた負担金は、利水・治水合わせて780億円超。税金の無駄遣いはおろか、美しい吾妻深谷を破壊し、次世代に莫大な借金を残すことがあつてはなりません。



10/22 2014年度予算要望書提出

代表質問より

急速な高齢化が進む千葉県

待ったなしの医療・介護問題

千葉県では医師・看護師をはじめとする医療資源が不足しており、全国最低レベルです。一方、高齢化は全国2番目のスピードで進んでおり、医療・福祉政策は最優先課題です。

今よりもっと大変に…

2012年10月、日本医師会総合政策研究機構が全国の二次医療圏別*の人口変化と医療資源についての調査を行いました。それによると、千葉の特徴は、①全体的に極度の医療

資源不足 ②大都市部では極度に医療機関が不足する一方、山

武長生表層では医療提供体制がほとんど存在しない ③75歳以上の高齢者が激増する大都市部を最重要地域と捉え、医療や介護の需要増に向けて早急に対応すべきと指摘されています。

*二次医療圏…

特殊な医療を除く一般的な医療サービスを提供する医療圏で、複数の市町村を一つの単位として認定される。

特に心配 印旛医療圏

佐倉市を含む印旛医療圏は「大都市型」に分類され、2035年における75歳以上の医療需要は、2010年との比較で136%増という結果となりました。千葉県の平均は101%増であり、県下で最も高い伸び率です。

佐倉市内には東邦大佐倉病院や聖隷佐倉市民病院などの中核病院があり、また救急救命を担っている成田赤十字病院や日医大千葉北総病院も近くにあるので、将来的な医療資源

不足と言われてもピンときません。しかし、今後20年後を見据えた政策を打ち出していかなければなりません。

お医者さんを地域で育てる

まず何と言っても、医師・看護師の養成確保が必要です。現在、国からの地域医療再生基金を活用して医師修学資金貸付事業が行われていますが、一人前のドクターが誕生するには少なくとも10年以上かかります。2019年度までに255名が貸付制度を利用し、医師として千葉県の地域医療に従事することが期待されています。

長野の地域医療に学ぶ

医師不足や高齢化という課題解決に向けて、お手本になるのが長野の地域医療です。長野県の平均寿命は男女ともに全国1位、県民一人あたりの高齢者医療費は低いほうから4番目です。去る7月、長野県庁や諏訪中央病院や佐久総合病院等を視察し、先進事例から学んできました。



7/11 諏訪中央病院のドクターと

プライマリ・ケア専門医に注目

諏訪中央病院は「24時間365日、患者さんを断らない」をモットーにしています。それを可能にしているのは幅広い疾病に対応できるプライマリ・ケア専門医*（総合診療医・家庭医の総称。以下、プライマリ専門医）の存在です。81人の医師のうち3分の1いるプライマリ専門医が夜間救急の当直を担当し、救急患者の9割を力入れていくとのこと。

また、佐久総合病院の地域ケア科では、「予防は治療に勝る」との信念に基づき、入院5、外

在宅医療の充実を

急速な高齢化で医療資源が不足する千葉県では、在宅医療の充実が急がれます。そのためには、プライマリ専門医の養成と、在宅で暮らし続けられる介護・福祉政策も併せて進めていかなければなりません。

プライマリ専門医は、県が進める「循環型地域医療連携」*の核となる存在です。ところが専門医は圧倒的に不足して

おり、研修医も県内の6病院に26名しかいません。2017年度から新たに導入される「総合診療専門医」養成に向けて、県が積極的に取り組む必要があります。

また、県が市町村と連携し、「地域包括ケアシステム」(住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供され、住み慣れた地域で暮らし続けられるしくみをさらに広げていく)積極姿勢が求められています。

*循環型地域医療連携…

5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)と4事業(救急、災害、周産期、小児)の各医療について、急性期から回復期、在宅に至る医療機関の治療と保健・福祉サービスを連動させるよう医療圏内で役割分担すること。千葉県保健医療計画より)



8/21 千葉大医学部にて

総合診療専門医ってなに?

今年3月、厚労省は2017年から「総合診療専門医」を導入すると決定。ようやく日本でもプライマリ・ケアの重要性が認められ、内科、外科等のように19番目の診療科となる。

千葉大でも国からの補助金を得て、今秋から総合診療専門医養成のための事業をスタートし、全国に先駆けて取り組むとのこと。

積極的な女性登用

入江…女性職員の登用状況と今後の具体的な取り組みはどのようにになっているのか?

県…知事部局の係長・主査級以上の女性職員は860名で23.3%。県警の巡査部長以上の女性警察官は205名で23.7%。公立学校の教頭以上の女性教員は361名で12.4%という状況にある。今後とも適材適所を基本に、男女の区別なく登用を図っていく。

コメント…国では政策決定の場への女性参画を2020年までに30%という目標を掲げて取り組んでいます。一方、千葉県では知事部局では課長級は9.1%。部長級はゼロとまだまだ低い状況。具体的な数値目標を設定し、積極的に進めるよう求めました。

再生可能エネルギーの推進

入江…本県における再生可能エネルギー発電設備の設置状況はどのようになっているのか?

県…今年5月末時点で太陽光



発電は105メガワットに達し、国の認定を受けている発電容量は850メガワットで全国第7位である。

入江…総合的なエネルギー政策に向けて、県独自のエネルギー戦略プランを策定すべきではないか?

県…「当面の推進方策」に基づいて着実に進めていきたい。

コメント…脱原発や低炭素社会づくりの観点から、独自のエネルギー政策を打ち出す自治体も増えていきます。千葉県も国にお任せではなく、エネルギーの地産地消、自立分散型電源の普及に向けて基礎的調査に着手し、数値目標を掲げて取り組む必要があります。

9月県議会

代表質問の内容

◆知事の政治姿勢について

- ・「原発事故子ども・被災者支援法」基本方針への対応
- ・再生可能エネルギーの推進
- ・女性登用の促進
- ・総合計画・財政健全化計画
- ・インフラ施設の老朽化対策
- ・公社等外郭団体の見直し

◆復興予算について

- ・これまで実施した事業について
- ・復興増税の用途について

◆ハッ場ダム事業及び治水・利水政策

- ・ダムだけに頼らない流域治水
- ・過大な水需要予測の見直し
- ・地下水の継続的利用

◆児童福祉について

- ・児童虐待への対応
- ・県立乳児院や児童養護施設のあり方

◆医療・介護問題について

- ・医師・看護師の養成確保
- ・県立東金病院閉院後の後医療
- ・東千葉メディカルセンター
- ・在宅医療を含む地域包括ケアの推進

*詳しくは、千葉県議会ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/gikai/>

その他の質問より

人口予測の見直し

入江…国の人口動態調査や民間シンクタンク等の推計によると、本県の人口はピークを過ぎ、減少傾向が明らかになっている。今議会で示されている新たな総合計画案で人口推計の見直しを行っていないのはなぜか?

県…H21年度に県が行った将来人口推計ではH29年まで増加すると見込んでいたが、震災

の影響により昨年、一昨年とそれぞれ1万人を超える減少が生じた。現時点では転入・転出の動向が不安定であり、適切な推計を行うことは難しい。

コメント…人口推計はさまざまな公共事業を行う上でペースとなります。県は人口のピークをH29年(626万2千人)としています。現時点でも620万人を切っています。今から4年後に7万人増やす誘導策もありません。おまけにハッ場ダム完成予定の31年度には、人口のピークがとつくに過ぎていきます。今こそ右肩上がりの予測を見直すべきです。

インフラ老朽化対策

入江…道路橋りょう、河川、上下水道等の社会基盤施設の老朽化対策、維持保全のための計画策定はどのようになっている

のか?



10/3 代表質問

県…橋りょう、河川施設、都市公園施設、流域下水道施設、県営住宅については施設ごとの長寿命化計画を策定したところである。

コメント…外環道、圏央道やそのアクセス道路など、新規の道路建設に、毎年100億円以上の予算が重点配分されています。インフラの老朽化対策にこそ、優先的に予算を振り向けるべきです。



自席で再質問